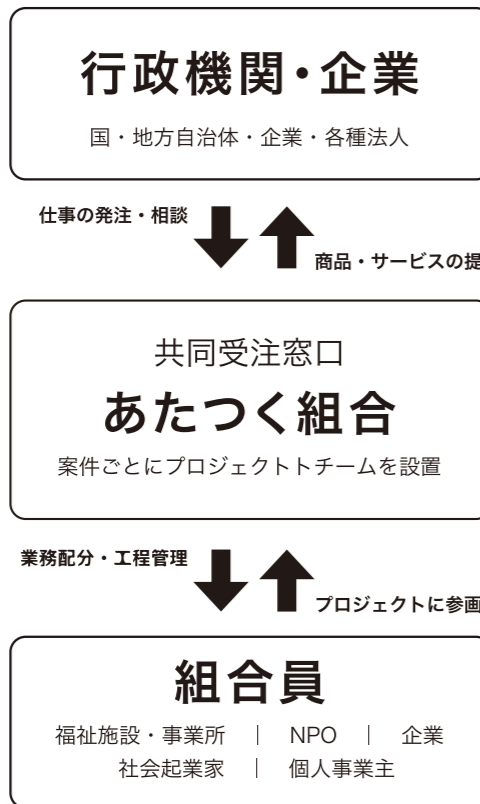


## あたく組とは

私たちは「はたらく」とは、社会の中で自分の存在価値を確かめることのできる大切な手段であると考えています。

障害のあるなしに関わらず、すべての人が「生きがいを感じながら、幸せに生きる社会をつくること」を目指して、あたく組を設立しました。そんな社会を実現するためには、相手を思いやり理解する「福祉」がベースとなり、安心で安全な社会の土台を支えることが大切です。

私たちは、今までにない働き方を創造しながら、誰もが幸せに生きる社会を目指しています。



### 「共同受注窓口事業者」

あたく組の大きな大きな役割の1つに「共同受注窓口」があります。福祉施設や事業所の運営規模は大小様々です。

「〇〇を発注したい」と思っても、納期や数量等がネックとなって、契約に結びつかない場合があります。あたく組が共同受注窓口を各施設等で分担できるように調整し、納期や工程管理を行います。

複数の事業所を統括することで、安定的な生産が実現でき、小規模事業所の生産活動にもつながります。この共同受注窓口により、障害者就労施設等からの授産品やサービスの受注推進につながっています。

## あたく組の運営スタイル

### あたく組の目的

- ✔ 就労支援により、障害者の「あたらしいはたらく場」をつくる
- ✔ 若者やママの仕事をつくる
- ✔ 中小企業の障害者雇用を応援する
- ✔ 多様な企業が連携した「共同体」を構築する

### あたく組の活動内容

1. 奈良の文化を継承する事業を推進します
2. IT系企業連携による行政等のHPを受注します
3. 奈良の地場産業を新たな視点で活性化します
4. 優先調達制度の受注で企業連携とはたらく場を開設します
5. コワーキングスペースで共同型の経営を支援します
6. セミナーや交流会で奈良の課題を解決します

あたく組の核「運営委員会」 あたく組では「運営委員会」を組織し、日々の業務に対応しています。

### 運営委員会

異業種の共同体であるあたく組には、様々な特徴を持った団体や個人が参加しています。その強みを活かすべく、「運営委員会」毎週(通常月曜午前中)を開催し、組合員が一同に会する機会を設けています。

事業の意義や目的など情報共有に止まらず、事業の進め方や新規プロジェクトについての意見交換や立案、ときには組合員の相談事に意見を出し合う、あたく組の心臓部です。



### 沿革

- |  |  |
|--|--|
| <p><b>平成27年</b>………<br/>12月 日本初、異業種で福祉型事業協同組合が発足</p> <p><b>平成28年</b>………<br/>9月 奈良県優先調達共同受注窓口に認定</p> <p><b>平成29年</b>………<br/>1月 春日大社境内の杉プロジェクト開始<br/>D@C Award2017大賞受賞<br/>事務局代行支援事業開始<br/>2月 奈良県障害者雇用ビジネスモデル事業の報告<br/>第5期生駒市障害福祉計画策定支援業務を受注<br/>9月 平城京再生プロジェクト参画<br/>生駒市広報誌デジタル化業務を受注</p> <p><b>平成30年</b>………<br/>4月 春日大社境内の杉で作った小品を奈良国立博物館に出品<br/>10月 未来の福祉セミナー第1期開催</p> | <p><b>令和元年</b>………<br/>1月 『多様性を強みにするこれからの働くをつくる』シンポジウム講演<br/>2月 三周年事業報告会を生駒市コミュニティセンターにて開催</p> <p><b>令和2年</b>………<br/>2月 奈良市障害計画等策定準備業務受注<br/>8月 未来の福祉セミナーオンライン化</p> <p><b>令和3年</b>………<br/>2月 奈良市障害者計画事業受注</p> <p><b>令和4年</b>………<br/>11月 第1回なら就労系福祉と企業のセミナー交流会開催</p> <p><b>令和5年</b>………<br/>4月 休眠預金活用事業によるダイバーシティ人材センター構想事業開始</p> |
|--|--|